

テント一週一文（へ）

——「脱原発・放射能汚染を考える北摂の会」通信
＋「福井から原発を止める裁判の会」ハガキ作戦

（承前）

渡辺ひろ子さんの『なずな』通信の文は短かったのも、すぐ読み終えた。私は文章のことはさっぱり分らないけれど、渡辺さんの文は短い中に距離感と言うか、余裕と言うか、迫らないものがある。そのことを目の前の女の人に言ったら、

「そうね、空白が感じられるわね」と難しいことを言う。

「何ですか、その空白って？」

「いま流行っている「のりしろ」に近い感じね」

「スポーツなんかで「のりしろがある」って言うと成長が楽しみっている感じが、渡辺さんはまだ成長するってことですか？」

「成長の余地っていうニュアンスじゃなくて、ゆとりって言ったほうがいいわ。シャカリキっていうでしょう。渡辺さんの文はノン・シャカリキ」

「文はノン・シャカリキで、渡辺さんはがんばっているからシャカリキじゃないんですか」

「文は人なりって言うから、彼女も案外ノン・シャカリキかもしれないわ」

「それはそうとヒゲは？ いやいやヒゲを伸ばしたお年寄りの人が先ほどまでいたのですが、急にいなくなったので、もしかしたら村長さんのことを警察に言いに行ったのかもしれないと思って……」

「そんなことはないけれど、共謀罪が通った今となってはそんなことを心配しなければならぬわね。共謀罪が呼び込む密告社会って言うけど、あなたは人間関係の危機、信頼関係崩壊の予感と予告を感じ取ったのよ」

「そんなもんですかね。さっき村長さんがこの通信を見せてくれたのですよ。びっしり詰まっているでしょう」

「北摂の会の通信ね。「脱原発・放射能汚染を考える北摂の会」って長い名前だけど」

「知っているのですか？ 北摂ってどこですか？」

「摂津の国の北の方だから……」

「摂津の国ってどこですか？」

「今で言うと大阪府の北のほうね。この会は、以前は「吹田の会」って言っていたの。吹田市で活動していたから」

「どうして北摂の会に変えたのでしょうか？」

「その方が宝塚市に引っ越したの。宝塚で吹田の会はないわね。今は吹田市は大阪府、宝塚市は兵庫県だけど、昔はどちらも摂津の国。活動のエリアが吹田市や宝塚市に広がったので、北部摂津、北摂の会にしたらしいわ」

「引っ越したから活動を止めたっていう訳ではなく、広げたところに感心しますね。で、会の趣旨は脱原発みたいだから 1986 年のチェルノブイリ事故の後で作ったのでしょうかね、それともフクシマ事故の後？」

「あなたチェルノブイリのことをよく知っているわね。まだ生まれていなかったで

しょう」

「あなたは、おいくつでした?」

「それはどうでもいいの! 摂津の会を作ったきっかけはフクシマ事故よ」

「築上町の渡辺さんと同じように一人で始めたのかな?」

「やむにやまれぬ気持ちからじゃないかしら。原発反対のチラシを作ってお友達と配ったり、署名活動をしたりしたそうよ。小学校、中学校、高等学校の同級生や住んでいたマンションの自治会の役員も一緒に活動してくれたんだって」

「2011年から6年半か、息長く続けていますね。でもこの通信は詰めすぎじゃないですか? 色々な記事がありますね」

「ほら、築上町の渡辺さんも書いていたでしょう、支援者の人が根っこはつながっているとって参加してくれるって。この方も広い視野からモノを言いたいよ。だから映画や本の紹介、橋下維新の会への批判と反対運動、沖縄の闘い、護憲……とテーマは反原発だけじゃなく幅広いみたいよ。月2回発行しているけど、それでもスペースが足りないって感じらしいわよ」

「最新号のこれが148号、みんな一人で書いているのですかネ?」

「関東に住んでいる友達も原稿を送ってくれるって話されていたわ。いいわネ」

「何部配布しているのか知らないけど、シンドイでしょうね」

「部数は手渡し、メール、郵送で150部を出しているそうよ。もう意地を出しているって言うていたけど、楽しんでるのじゃないかな。そして妙なもので、シンドクなったときに思わぬ人から声を掛けられてめげずにやっていたらいいのだって」

「それはそうと、このびっしり詰まったのを皆さんに紹介するのですか!」

「あなたが何度もビッシリって言うからその様子を見ていただこうかと思うの」

「私は反原発関連のところだけを読みます。読んでいるときに声をかけないでくださいよ。声を掛けられると読んだことを忘れてしまいますから」

(しばし沈黙と思っていたら、おばさんはまたもや話しかけてきた)

「ちょっと待って。ちょっと」

「ヒゲの親父の言うことは難しくて、このおばさんはうるさい。二人と一緒にテントに居たら、村長さんも苦勞するだろうね」とは思ったが、これは面と向かっては言えない。

「何か?」と穏やかに顔を上げた。

「こんなお願いも来ているわよ。裁判所にハガキを出すのだから。見て、これは急いでいるみたいよ。これも紹介していただいけませんか?」と急に丁寧な口調になる。

「もう北摂の会の紹介と決めているのですから」

「いいじゃない。二つ一緒に紹介しても」と元の口調に戻って、元気がいい。

「タイトルが一週一文なのですよ。二つ紹介したら一週二文になるじゃないですか」

「いいのよ、一週三文でも、二週一文でも、三週一文でも。誰かが勝手に付けたタイトルなのだから」

「うるさい上に強情な……」と思ったが、これも口には出せない。

ということで「今週二文紹介したら来週は休みですよ」と条件闘争に転じた。

「休んでもいいわ。誰も読んでいないのだから」

「……、分りました」と、私は平気で人の心を傷つける彼女の言葉を聞きながら、力なく答えた。

(以下次号)

(文責 栗山次郎) 2017年6月26日公開

原発なくす蔵・編集部より

○原稿を作成している最中に、北撰の会より最新号(149号)が送られてきましたので、あわせて掲載します。

○「福井から原発を止める裁判の会」のハガキ作戦にご協力下さい。

ハガキであれば120円切手を貼って、封書であれば82円切手を貼って投函下さい。

.....

■脱原発・放射能汚染を考える北撰の会

No.148号 [hokusetsu148.pdf](#)

No.149号 [hokusetsu149.pdf](#)

No.150号 [hokusetsu150.pdf](#)

No.151号 [hokusetsu151.pdf](#)

No.152号 [hokusetsu152.pdf](#)

No.153号 [hokusetsu153.pdf](#)

No.154号 [hokusetsu154.pdf](#)

No.155号 [hokusetsu155.pdf](#)

No.156号 [hokusetsu156.pdf](#)

No.157号 [hokusetsu157.pdf](#)

No.158号 [hokusetsu158.pdf](#)

No.159号 [hokusetsu159.pdf](#)

No.160号 [hokusetsu160.pdf](#)

No.161号 [hokusetsu161.pdf](#)

No.162号 [hokusetsu162.pdf](#)

No.163号 [hokusetsu163.pdf](#)

No.164号 [hokusetsu164.pdf](#)

No.165号 [hokusetsu165.pdf](#)

No.166号 [hokusetsu166.pdf](#)

No.167号 [hokusetsu167.pdf](#)

No.168号 [hokusetsu168.pdf](#)

No.169号 [hokusetsu169.pdf](#)

No.170号 [hokusetsu170.pdf](#)

■裁判所にA4のハガキを出そう! 福井から原発を止める裁判の会

http://npq.boj.jp/kieyuku/week_repo/170626leaf.pdf